

# 岩美町下水道事業経営戦略(令和7年度策定)

## 1.経営戦略の概要

下水道事業を取り巻く経営環境は、人口減少等に伴うサービス需要の減少や保有する施設の老朽化に伴う更新費用の増加などにより厳しさが増しており、将来にわたり住民生活に必要なサービスを提供していくため、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上を図ることが求められています。

このような中、令和4年1月に総務省より、「経営戦略の改定推進について」において、今後の人口減少や物価上昇等を反映した経営戦略の見直しを令和7年度までに実施することが要請されました。

## 2.進捗状況

### (1)投資事業計画

下水道施設の適切な管理や計画的な改築事業を行い、安定した下水道サービスの提供に努めます。

令和8年度以降、ストックマネジメント計画に基づき管渠・処理場施設の更新工事を行います。

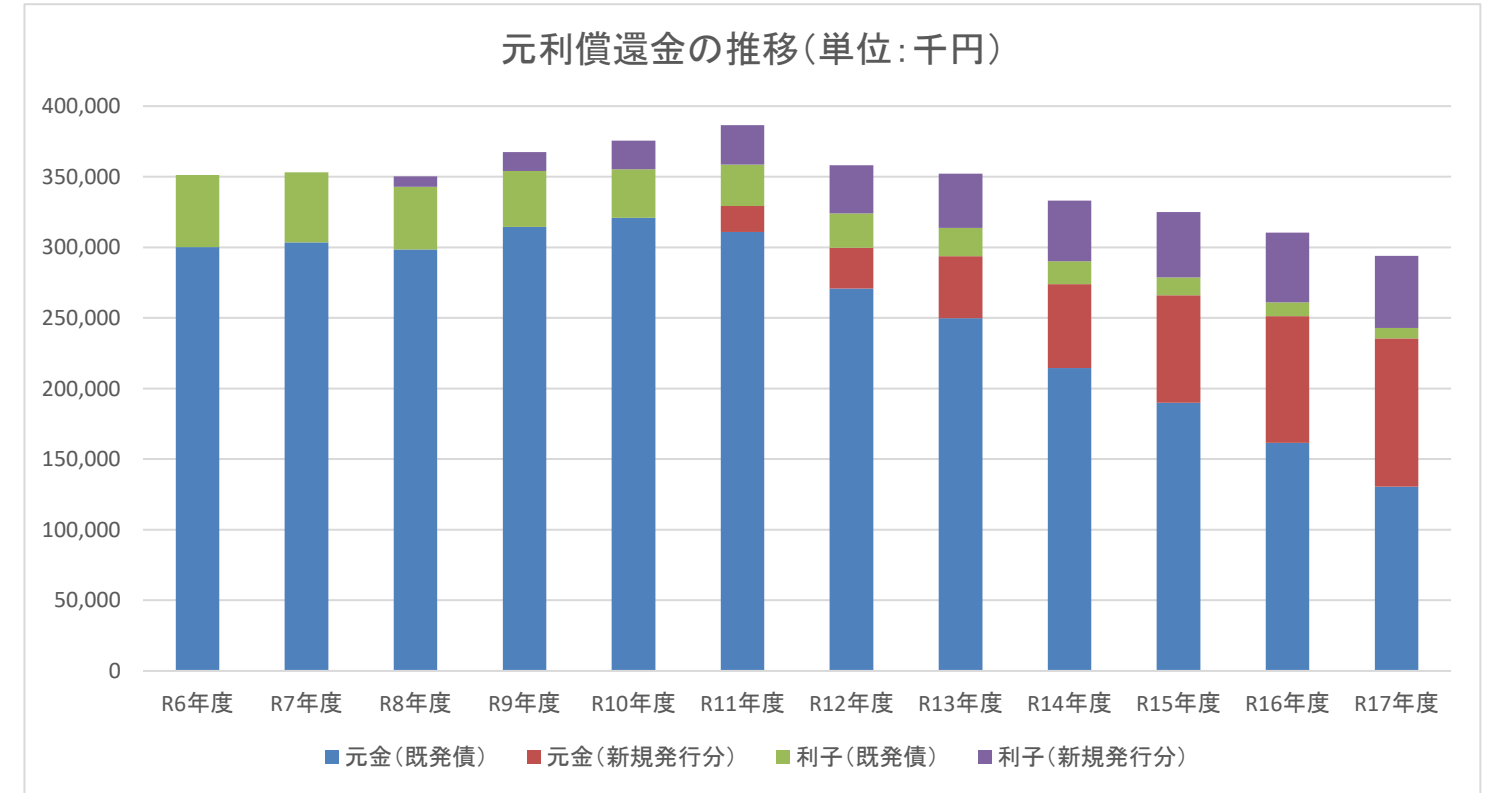
また、FDK(株)の下水道接続に向けた実施設計業務に着手します。

	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	合計
ストックマネジメント計画2期	実施計画策定 38,230	事業期間										38,230
ストックマネジメント計画3期					全体計画策定 12,000	実施計画策定 40,000	事業期間					52,000
大谷浄化センター 脱水機改良工事	工事費 25,000											25,000
大谷浄化センター 汚水ポンプ外取替工事		工事費 11,000										11,000
大谷浄化センター 受変電設備外工事		実施設計 24,000	工事費 82,500	工事費 124,300								230,800
大谷浄化センター 沈砂池ポンプ設備工事				実施設計 15,400	工事費 124,300	工事費 18,700						158,400
大谷浄化センター 耐震診断業務			業務費 56,000									56,000
大谷浄化センター関係工事						実施設計 15,400	工事費 75,000	工事費 75,000	工事費 75,000	工事費 75,000	工事費 75,000	390,400
浦富浄化センター 脱水機改良工事		工事費 22,400										22,400
浦富浄化センター 流量計取替工事		工事費 5,000										5,000
浦富浄化センター関係工事	工事費 190,400					実施設計 13,000	工事費 75,000	工事費 75,000	工事費 75,000	工事費 75,000	工事費 75,000	578,400
東浄化センター関係工事		工事費 7,400	工事費 5,000	工事費 5,000	工事費 5,000	工事費 5,000	工事費 5,000	工事費 5,000	工事費 5,000	工事費 5,000	工事費 5,000	52,400
長谷白地浄化センター関係工事		工事費 1,500	工事費 2,000	工事費 2,000	工事費 2,000	工事費 2,000	工事費 2,000	工事費 2,000	工事費 2,000	工事費 2,000	工事費 2,000	19,500
マンホールポンプ取替工事	工事費 14,300	工事費 27,800	工事費 15,000	工事費 15,000	工事費 15,000	工事費 15,000	工事費 15,000	工事費 15,000	工事費 15,000	工事費 15,000	工事費 15,000	177,100
下水道管路工事	工事費 2,500	工事費 28,000	工事費 10,000	工事費 10,000	工事費 10,000	工事費 10,000	工事費 10,000	工事費 10,000	工事費 10,000	工事費 10,000	工事費 10,000	120,500
FDK下水道接続		実施設計 25,000	工事費 33,400	工事費 50,000								108,400
合計	270,430	152,100	203,900	221,700	168,300	119,100	182,000	182,000	182,000	182,000	182,000	2,045,530

## (2)投資事業の財源

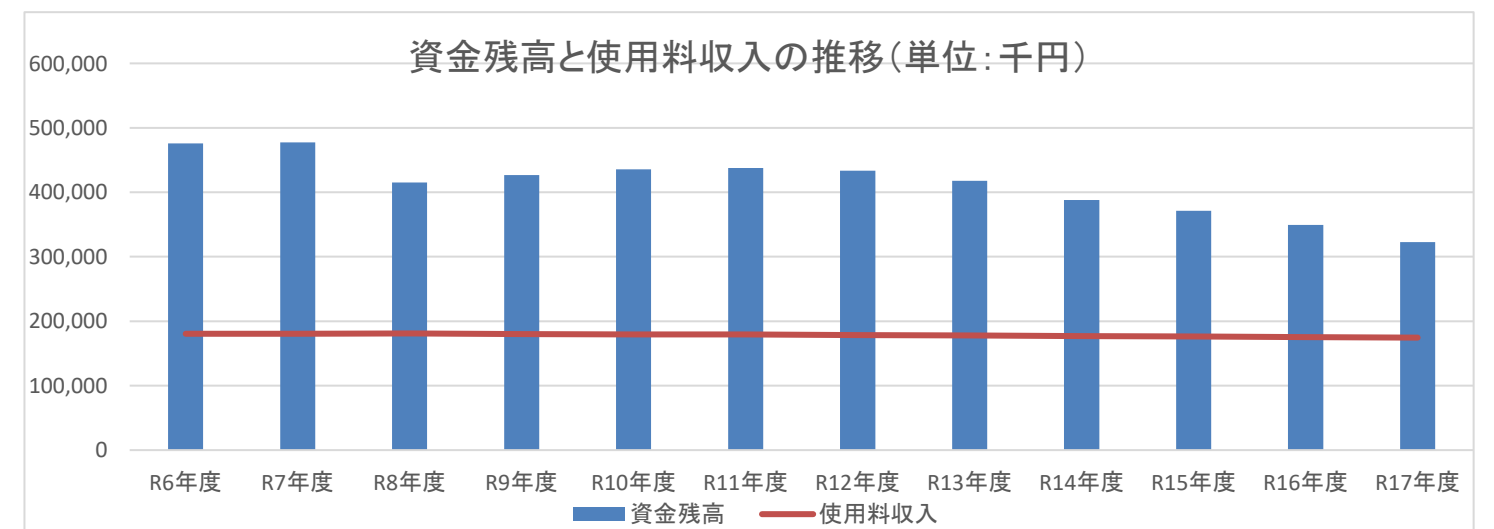
財源については、自己財源が少しでも少なくなるよう国庫補助金、県補助金及び補償費等を活用し、残りを企業債を充てることにより、事業を実施します。

既存の借入分に係る元利償還金に加え、計画期間中の新規借入分の元利償還金の見込を計上しています。令和11年度にピークを迎えますが、順次既発債の償還終了となり、令和12年度以降は減少が見込まれます。



## 3.資金残高と使用料収入の推移

投資・財政計画に基づくキャッシュフロー計算書を用いた資金残高の推移は、年々減少が見込まれます。使用料収入についても、年々減少が見込まれます。資金残高については、単年度の使用料収入を下回ることがないので、資金の確保は出来る見込みです。少しでも資金の確保を行うため、経費削減に努めていきます。



## 4.経営戦略の検証

今回策定した経営戦略については今後、PDCAサイクルにより投資・財政計画の達成状況について毎年度進捗管理を行い、計画の進捗状況の確認を行っていきます。

また、概ね5年毎に経営戦略の見直しを行いますが、計画に大きな修正等が必要となった場合には随時見直しを行います。